

12月定例会 一般質問要旨



放課後児童クラブ・こどもプラッツの充実について



志友会 松川 翼

議員 放課後児童クラブやこどもプラッツの減免制度について伺います。

福祉こども部長 35カ所の放課後児童クラブで減免制度を設けており、内容は各クラブで決定しています。こどもプラッツに減免制度はありませんが、2人以上の同時利用やひとり親世帯については、優先的に入所できることとしています。

議員 市が主体となった減免制度の導入について、市長の所見を伺います。

市長 こどもプラッツの利用料は月額3,500円、放課後児童クラブについても月額利用料の上限を9,000円としており、これ以上の減免は難しいと考えます。

議員 祝日などの開所やこどもプラッツの長期休暇期間のみの利用、早朝からの開所など、時代に合わせた取り組みが必要と考えますが、所見を伺います。

市長 受け手側の職員の働き方も考慮する必要があると考えますが、こどもプ

ラッツについては、人材を確保できるかなど一度検討してみたいと考えます。

議員 こどもプラッツでの昼食の提供について、所見を伺います。

市長 縁台トークの中で保護者から要望があり、大泉町の給食センターに引き受けていただき実施しました。食べ残しの処理など課題はありますが、生活習慣を身につけさせながら、昼食の提供は続けていきたいと考えます。

議員 放課後児童クラブにより開所時間などが異なることから、保護者の利便性向上に向けた情報発信が必要と考えますが、所見を伺います。

市長 開所時間などの情報は一括して出した方がいいと思いますので、その方向で検討していきたいと考えます。



1%まちづくり事業の現状と課題について



太田クラブ 白石 さと子

議員 1%まちづくり事業について、地区別の採択件数と、地区ごとに差が生じている要因などについて伺います。

地域振興部長 令和5年度の採択件数の上位地区は、菟川24件、宝泉13件、尾島13件、下位地区は生品4件、強戸3件、毛里田3件となっています。差が生じる要因としては、本事業の有効性への理解が進んでいることや、書類作成の習熟度、事業に参加できる住民の確保ができてきていることなどが考えられます。地区ごとの差を縮小するために、申請件数の少ない地区への啓発活動を行っています。

議員 地区ごとの利用頻度の差を解消するための施策や啓発が必要と考えますが、市長の所見を伺います。

市長 1%まちづくり事業は、住民が求める事業を住民が主体となって行うことを狙いとしており、自分たちで何か事業を始めようという時には、最も適した制度であると考えます。行政セン

ターの所長が中心となり、地域のいろいろなサークルや階層に投げかけ、事業をさらに拡大してほしいと思います。



議員 1%まちづくり会議の委員について、現在はボランティアとして募っていますが、今後有償ボランティアとすることについて、所見を伺います。

市長 民生委員をはじめ、さまざまな分野でお願いしている委員について、その労力に少しでも報いることができるような制度を作ろうと考えており、1%まちづくり会議の委員も含め、4月から実行に移していきたいと思います。

■その他の質問

・損害賠償に係る専決処分の内容と対応について



戦後80年を記念する本市事業について



公明党 星野 一広

議員 (仮称)太田市平和祈念展示資料室の概要について伺います。

文化スポーツ部長 平和祈念資料室として内覧できるよう内装改修、電気工事の他、資料展示用のショーケースやモニターの設置を予定しています。当時の市民生活を垣間見ることができるよう資料を展示する予定であり、戦争の悲劇を語り継ぎ、二度と戦争を起こしてはならないということが学べるような展示内容を考えています。

議員 令和7年は戦後80年の節目の年であり、改めて戦争の悲惨さを風化させないためにも、平和教育を推進すべきと考えますが、教育長の所見を伺います。

教育長 教職員が戦後80年という節目を意識し、授業や行事の中で平和教育を推進するよう伝えていきたいと考えます。

議員 平和祈念展示資料室の活用について、市長の所見を伺います。

市長 戦争体験を次の世代に伝え

ることは非常に意義があると思っておりますので、資料室が完成した際は、ぜひ子どもたちに来ていただき、平和の大切さを感じてもらえればと考えます。

議員 戦後80年の記念事業として、各地の自治体で上映を行っている映画「祈り 幻に長崎を思う刻」の上映会の開催を提案しますが、所見を伺います。

市長 平和祈念資料室完成のタイミングで上映を行うことで、非常に高い効果があると考えますので、実施する方向で検討していきたいと思います。



■その他の質問

・農業者支援の拡充について
・高齢者の運転免許証自主返納サポートの充実について



こども達へのメディアリテラシー教育について



太田クラブ 渡辺 謙一郎

議員 授業におけるメディアリテラシー教育について伺います。

教育部長 中学校の社会や理科の授業では、インターネットなどを使って調べ学習をする際に、情報の真偽を確かめることの必要性などを指導しています。



議員 これからの時代を生きる子どもたちには、不確かな情報に振り回されず、適切な情報を見極め、効果的に活用する力を身につけてほしいと考えますが、メディアリテラシー教育の充実について、教育長の所見を伺います。

教育部長 SNSで発信した情報が後に大きな問題に発展するケースもあり、1人1人が発信すべきか否かを判断できる力が必要であると考えます。メディア

リテラシーを身につけることで、被害者だけでなく加害者になる危険性も避けることができると考えますので、学校と家庭が協力し合い、メディアリテラシーの向上を目指していきたいと思います。

議員 情報の真偽を判断するためには、道徳の学びが非常に重要であると考えます。論語の中に「君子は義に喩り小人は利に喩る」という言葉がありますが、メディアリテラシーにおける道徳の重要性について、所見を伺います。

教育部長 全教育活動を通じて、子どもたちが道徳的な判断力と実践力を身につける必要があると考えますので、信頼関係を築き、学校・家庭・地域が三位一体となり、取り組んでいきたいと思います。

■その他の質問

・プロスポーツ及びトップレベルスポーツを活用したスポーツの振興と本市の魅力向上について
・除草事業の現状と今後の改善について